

平成 31(2019)年度 病害虫発生予報 第 1 号

平成 31(2019)年 4 月 19 日
栃木県農業環境指導センター

天候の変化に注意し、野菜類病害虫の発生増加を防ぎましょう！

予想期間 4 月下旬～5 月下旬 予報の根拠で、(+) は増加要因、(-) は減少要因を表す。

1 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比 70.9%：ほ場率、平年比 59.8%:株率)。(±)
・向こう 1 か月の気温は平年並または高く、日照時間は平年並の見込み。(±)～(+)
- (3) 対 策 ・葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
・化学農薬に対する感受性低下が著しいため、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しない気門封鎖剤を活用する。
・気門封鎖剤は卵に効果が低いため、5 日程度の間隔をおき、複数回散布する。また、葉・果実の傷みを防ぐため、乾きにくい雨天日等の散布を避ける。
- (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

2 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比 95.8%：ほ場率、平年比 146.2%:花率)。(±)
・向こう 1 か月の気温は平年並または高く、日照時間は平年並の見込み。(±)～(+)
- (3) 対 策 ・ハウス内の雑草はアザミウマ類の増殖源になるので除草する。
・花を観察して、その 1 割以上でアザミウマ類が見られた時は、被害が大きくなる恐れがあるため、スピノエース顆粒水和剤かディアナ SC を散布する。これらの薬剤はミツバチや天敵に影響があるので、薬剤散布後ミツバチ等を放飼できるまでの期間に注意する。
- (4) 備 考 ・秋期にアザミウマ類の発生が多かった施設では、注意が必要である。
・[平成 30\(2018\)年度植物防疫ニュース No. 10](#)、[病害虫防除対策のポイント No. 19](#) [いちごのアザミウマ類](#)、[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

3 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比 95.4%：ほ場率、平年比 65.6%:株率)。(±)
・向こう 1 か月の降水量及び日照時間は平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面に結露が生じないように管理する。
・咲き終わった花卉や発病果、発病葉は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
・予防を基本とし、フルピカフロアブル等を散布する。発生が見られたら、ピクシオ DF 等を散布する。
- (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHP に掲載中。

4 たまねぎ べと病

- (1) 発生予想 ・発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は多い(平年比 271.7%：ほ場率、平年比 227.3%：株率)。(+)
・向こう 1 か月の降水量及び日照時間は平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・排水対策を行う。
・ジマンダイセン水和剤、ザンプロ DM フロアブル等を散布する。
・曇雨天が続くと予想される場合は、降雨前に薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・気温 15℃くらいで雨が多いと発生が多くなる。

5 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比 102.7%：ほ場率、平年比 100.0%:株率)。(±)
・向こう1か月の降水量及び日照時間は平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・薬剤がかかりやすい生育初期からの防除を行う。
・葉裏をよく観察し、発生が見られる場合は、下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に薬剤を散布する。
・化学農薬に対する感受性低下が著しいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しない気門封鎖剤を活用する。
・高温時や結蕾期以降は、葉害が生じやすいので注意する。
- (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

6 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	灰色かび病	少	少	トマト	コナジラミ類	やや少	やや少
	うどんこ病	少	少	きゅうり	べと病	やや多	やや多
	アブラムシ類	やや多	やや多		うどんこ病	平年並	平年並
トマト	葉かび病	少	少	アザミウマ類	やや少	やや少	

7 春の病害虫防除対策

- (1) **麦類 赤かび病**
 - ・出穂や開花状況をよく観察して、適期に赤かび病防除を行いましょう。
 - ・[平成30\(2018\)年度植物防疫ニュース No.11](#)を当センターHPに掲載中。
- (2) **いちご親株床**
 - ・いちごの収穫作業や水稻作業等が重なる繁忙期ですが、親株床での病害虫発生に注意しましょう。また、本ぼと親株床の管理作業を分け、本ぼからの病害虫の持ち込みを避けましょう。
- (3) **トマト コナジラミ類、キュウリ アザミウマ類**
 - ・気温の上昇に伴い、施設内で越冬したコナジラミ類やアザミウマ類が急増するおそれがあります。コナジラミ類やアザミウマ類を野外に出さないよう、防除を徹底しましょう。特に、タバココナジラミはトマト黄化葉巻病(TYLCV)を媒介し、ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病(MYSV)を媒介するため、注意が必要です。また、施設栽培では、栽培終了時にすべての株を地際から切断した上で蒸し込み処理を行い、寄生している害虫を完全に死滅させ、外部への拡散を防ぎましょう。
- (4) **なし 黒星病**
 - ・一次伝染時期となるりん片脱落期から開花期は最重要防除時期です。果そう基部病斑(芽基部病斑)の摘み取りを徹底し、2分咲きから落花直後に治療効果があるDMI剤を散布しましょう。また、開花期から展葉初期に降雨が多く、開花から2週間以内に黒星病の発生が散見される場合は、多発の危険がありますので注意しましょう。

- 農薬は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、正しく使いましょう！
- 同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。
- 花粉媒介昆虫(ミツバチ、マルハナバチ)や天敵に対する影響日数を目安に薬剤を選択しましょう。
ミツバチ・天敵等に対する農薬の影響の目安①、②、③を栃木県農作物等病害虫雑草防除指針参考資料に掲載中。<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/tochigi>

1か月気象予報(予報期間4月20日から5月19日 4月18日気象庁発表)

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、平年並の確率50%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

項目	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	20%	40%	40%
降水量	30%	40%	30%
日照時間	30%	40%	30%

詳しくは農業環境指導センター(Tel 028-626-3086)までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部\(@tochigi_nousei\)](#)」、農業環境指導センターホームページ(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>)でもご覧になれます。